



# かながわの海の魅力について

## (1) 海の環境について

**(質問要旨)** 美しい海岸を守るには、県民の日頃からの心がけが必要である。県では、BBQゴミに限らず、「なぎさのゴミ」全般を海岸清掃しており、海岸を有する13市町と県が設立した公益財団法人「かながわ海岸美化財団」が、行政の域を超えて一体的に清掃活動を展開し、20年以上、海の魅力を高めるために活動している。一方、海岸美化を推進するためには、より幅広く県民や団体が連携・協力して、支える必要があると考える。本県が財団を設立したもう一つの意義は、様々な人々と協働して海の魅力を高めるための柔軟な取組を進めることができるからと、理解している。

そこで、財団は県民や団体と連携・協力した取組をどのように進めているのか伺いたい。また、県として、それをどのように評価しているのか、併せて所見を伺いたい。

**(知事答弁要旨)** 財団設立以来、横須賀市走水海岸から湯河原町湯河原海岸までの約150kmに及ぶ自然海岸の清掃等を精力的に展開してきた。しかし、神奈川の長い海岸線を美しく保つためには、財団だけでなく、多くの県民や団体の皆さまが海岸美化に取組んでいただくことが必要である。そこで、財団では、「美化啓発」「美化団体への支援」の2つの方法で県民や団体と連携・協働の取組を進めている。

団体が実施する清掃活動を支援するため、清掃用具の貸出やごみの無償回収などを行うとともに、団体間の連携を深めるための交流会を開催している。

次に、財団の取組みに対する評価だが、財団がこうした県民・団体との連携を進めてきた結果として、平成25年度の清掃ボランティア活動への参加者数は、財団設立当初の約3倍となる15万人を突破するなど、海岸美化の輪が大きく広がっている。私としても、このように多くの方が、海岸のごみを拾うという地道な活動に、ボランティアで参加していただいていることを、大変心強く感じており、財団の積極的な取組みの成果であると高く評価している。



**(要望)** 県では平成22年から海水浴場での分煙が実施されています。その結果、「江の島周辺の海岸は、夏が終わると海岸が灰皿のようになっていたが、かなりの効果がありました。感謝しています。」と財団のスタッフにお礼を言われ、ルールづくりの大切さを改めて感じました。また、ビーチクリーンに参加した人は、ポイ捨て率がきわめて低いと報告を受けました。「なぎさのゴミ」はどこから来るのか？それは街から川に流れて、川から海に入って来

ます。ゴミに対する心がけを子ども達に啓発して頂きたいと思えます。

(写真は県が実施する海岸利用者等へのゴミ持ち帰りの呼びかけ事業に同行させて頂いた時のものです。県内十ヶ所で実施しています。)

## (2) 「かながわシープロジェクト」について

**(質問要旨)** 昨年12月に知事に答弁いただいた「かながわシープロジェクト」が、動き始め、5月に第1回プロデュース会議が開催された。会議では様々な提案があったと報告されている。

そこで、①今年度1,100万円の予算が計上されているが、今後、どのようにプロデュース会議の提案を実行に移していくのか、神奈川の海の魅力の発信方法について伺いたい。②また、三浦半島地域は、すでに4市1町で「三浦半島サミット」を開催しており、プロジェクトの基盤となるポテンシャルがあると考えますが、併せて所見を伺いたい。

**(知事答弁要旨)** 神奈川の海の魅力をどのように発信していくかは、シープロジェクトの成否を左右するポイントであり、プロデュース会議からの提案を楽しみにしている。

総合プロデューサーを務めるジャーナリストの木村太郎さんから「全世界に向けて、神奈川の海のPRキャンペーンを行おう」という大きな提案があり、全委員の賛同を得た。それに沿って3つのポイントが議論された。「CM映像」「音楽」「キャッチフレーズ」である。県が実際のCMを作成し、今年度中に、国内外に向けて発信する。

次に、三浦半島地域について。三浦半島地域は、マリンスポーツ、海岸の景観、食、歴史など、ポテンシャルが高い海の魅力に溢れており、もちろん、シープロジェクトの主要な舞台となる。

また、昨年始動した「三浦半島サミット」では、地域一体となった観光振興等に取り組んでいく方向性が示されているので、シープロジェクトを展開する上で、心強いパートナーになっていただけるものと期待している。その具現化に向けて、是非、三浦半島地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えている。

**(要望)** PRキャンペーンを楽しみにしております。

シープロジェクトの成否は海のみならず、交通の利便性にも左右されると思えます。12月の質問の際に、知事から「シープロジェクトと城ヶ島・三崎の核づくりで三浦半島をPRして参ります。是非5市町の『三浦半島サミット』とともに、三浦半島の活性化を図っていきたくて考えております。」と前向きな答弁を頂き、順調に船出したかに見えた三浦半島サミットです。しかし4月1日からのETC割引の廃止による有料道路の実質的な値上げに加え、5月27日に開催された、「三浦半島地域広域幹線道路整備促進期成同盟」で、横浜横須賀道路など4道路の値下げを国と公社に要望しましたが、「困難」という回答しか返ってきませんでした。さらに圏央道についても、東名高速などに比べて、利用料金が高いと相模原市から料金低減について要望が出されています。また、様々な条件が順調に進めば、横浜湘南道路と環状南線が平成32年度に全面開通できると伺っています。この整備が終わらなければ山梨県や埼玉県など海のない県の方が、圏央道を使って神奈川に来て、有料道路のネットワーク整備がなければ、三浦半島に足を運ぶことはあまり期待できません。有料道路のネットワーク整備と料金問題は、かながわシープロジェクトの成否に大きく影響しかねません。一日も早い整備と解決を要望して、私の質問を終わらせていただきます。

(後日の感想：PRキャンペーン、音楽が要かな？永く愛される名曲が必要だと思います。)